

神戸大学ヨット部 News Letter



目次

- ・全日本学生ヨット選手権大会結果報告
- ・全日本インカレ所感

はじめに

お世話になっております。神戸大学体育会ヨット部 広報の西山です。

秋冷の候、OB・OGの皆さんにおかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。全日本インカレ出場に際し、OBOGの皆さんより多大なるご支援金を賜り、無事大会に臨むことができました。あらためて心より御礼申し上げます。本号では、全日本インカレの結果報告とともに、出場した部員たちの率直な所感をお届けいたします。全国の舞台で痛感した悔しさ、そこから得た学びを糧に、部員一同さらなる成長を目指して励んでまいります。ぜひご一読いただけますと幸いです。

全日本学生ヨット選手権大会結果報告

470級(全72艇)9R実施

45位4815 市川④池田②396点

50位4801 続③下山③414点

69位4741 太田③酒井③523点

団体成績21位1333点 (全24校)

総合順位20位 (全21校)

スナイプ級(全72艇)8R実施

44位31493 大島③川瀬④ 349点

58位31730 浅井③澤本② 406点

67位31367 寺岡④岩田③ 466点

団体成績20位1221点 (全24校)

詳しい成績は、こちらのサイトからご確認ください。→ [全日本インカレ結果](#)

全日本インカレの所感

3回生/スナイプクルー 岩田優人



お世話になっております。

スナイプリーダーを務めさせていただいた3回生スナイプクルーの岩田優人です。

今年の全日本インカレでは、結果として全く満足のいくものを残すことはできませんでした。個々の技術も、チームとしての総合力も、全国の舞台ではまだまだ力不足であることを痛感しました。

しかし、全国の強豪と真っ向からぶつかり、その「壁」の厚さを肌で感じられたことは、私たちスナイプチームにとって大きな財産です。この経験を通じて、自分たちに何が足りないのか、何を伸ばすべきかが明確になりました。

来年こそこの壁を越えられるよう、一人ひとりが覚悟を持って取り組みます。日々支えてくださる皆様への感謝を胸に、さらに成長した姿をお見せできるよう努めます。

全日本インカレの所感

3回生/470スキッパー 太田希海



お世話になっております。

3回生470スキッパーの太田希海です。

今回の全日本遠征にあたり、多大なるご支援を賜り、誠にありがとうございました。

初めての遠征となりましたが、強豪大学の選手たちと同じ舞台で戦う中で、多くの刺激と学びを得ることができました。特に、陸上での準備やコミュニケーション、海上での動きや判断の速さなど、あらゆる面で自分たちとの差を痛感しました。同時に、今後の成長に向けた課題も具体的に見えてきました。まだまだ足りない部分は多いですが、一つひとつ課題を改善し、全日本の常連校として安定した結果を残せるチームを目指して努力していきます。

来年は地元・西宮市で全日本が開催される予定であり、今回の経験は大きな財産となりました。ビッグフリートでの経験は限られていますが、この貴重な学びをチームで共有し、次の代へ継承していきたいと思います。今回の経験を糧に、より高いレベルを目指して日々の練習に励みます。

全日本インカレの所感

3回生/470クルー下山克貴



お世話になっております。3回生470クルーの下山克貴です。470チームは今回の全日本に24校中15位という目標を持って望みましたが、結果としては遠く及ばず、他大学との差を痛感することとなりました。技術的に劣っていると言う部分ももちろんあるのですが、神戸大として結果が振るわなかった大きな要因のひとつに、全日本の空気に飲まれてしまったことが上げられると思います。両クラスで関西インカレを突破したこと自体が数十年ぶりであり、全日本に向けた準備の仕方や戦い方が確立していない状態であったために、1年間全日本を見据えて練習を重ねてきた他大学との意識の違いが多くの場面で見受けられました。今後神戸大学が全日本の舞台で強豪と同じ土俵で戦うためには、まずは全日本に出場することが当たり前の環境にすることが必須であると考えています。来年度、自分は主将という立場になりますが、今年両クラス突破という形で始まった神戸大の新たな進歩を来年も引き継ぎ、全日本常連校となれるような強いチームにしていきたいと思います。

全日本インカレの所感

3回生/470スキッパー続将



お世話になっております。3回生470リーダーの続将です。初めての全日本インカレでは、470級24校中15位を目標に臨みました。1レースあたりのターゲットスコアは3艇で120点と、一見達成できそうに思えましたが、現実はそう簡単ではありませんでした。最も重要なスタートで出遅れてしまったり、スタートを決めてもスピードを維持するのに必死で周囲を冷静に見る余裕がなく、結果として多くのレースで50位前後を走ってしまいました。正直、もう少し前を走れると思っていましたし、もっと中身のあるレースができると思っていました。実力不足を痛感し、本当に悔しいです。それでも、高校の頃からの夢だった「江の島でヨットをする」という目標を仲間と共に叶えられたことは、とても嬉しく貴重な経験となりました。

また、強豪校の雰囲気は非常に刺激的で、特に470・スナイプ両クラスで協力して総合優勝を掴んだ日本大学の姿には心を動かされました。今になって初めて、「総合順位を求める意味」を実感できた気がします。ラスト1年、全国でも戦える実力を確実に身につけ、最後西宮でリベンジを果たせるよう全力で頑張ります。

全日本インカレの所感

2回生/スナイプスキッパー出光竜也



お世話になっております。

2回生スナイプスキッパーの出光竜也です。

自分は4番艇、いわゆる控えスキッパーとして今回の全日本に出場させていただきました。スタートラインの密度、フレッシュを取ることの難しさ、西宮では考えられないスターボの壁、上位艇団の帆走能力の高さに圧倒されて自身の実力不足を痛感いたしました。一方で、スタートやコースが成功した際は30番台で回航することができ、再現性のあるスタートの重要性、リーチングやフリー、そして流し込みで状況に応じて最適な戦略を取ることの大しさ、また上位艇団との帆走力の差を間近で感じることもできました。

このような舞台まで連れてきていただいた先輩方、そしてOB様方のご支援に深く感謝するとともに、この貴重な経験を還元し来年再来年のインカレでより前を走ることができるよう、より一層練習に励んでいきたいと思います。

全日本インカレの所感

2回生/スナイプクルー澤本響希



お世話になっております。

2回生スナイプクルーの澤本響希です。

この度は3番艇のクルーとして全日本インカレに出場させていただきました。レースにおいては、全国では特にスタートを出てフレッシュをとる重要性が高いことを痛感しました。ほとんどのレースでスタートを成功させることができず、フレッシュをとるまでに時間がかかる展開が多かったです。逆に一度フレッシュをとれてしまえば、帆走やコースについてはいつも通りやれば、ある程度は全国でも通用することがわかりました。20番台を獲得するにはスタートをしっかり出ること、もっと上位を目指すなら、帆走力を高める、タック、ジャイブポイントにシビアになることが必要になると感じました。レース以外では、他大学の手際の良さに圧倒されました。例えば、最終レースのフィニッシュ1時間後にはほとんどの大学がハーバーを出でていたり、ランニング中に曳航を繋いでいる大学がいたりしたのは印象的です。他大学は陸での統率力が高く、それが手際の良さに繋がっているのだと感じました。とにかく、この遠征では我々に足りていないものや課題が浮き彫りになり、それを解決するヒントを様々な大学から得ました。今後、神戸が全国常連校となり前を走れるように、海でも陸でも全力を尽くそうと思います。

全日本インカレの所感

2回生/470クルー池田春菜



お世話になっております。

2回生470クルーの池田春菜です。

全日本インカレでは、強豪校との違いを陸・海ともに多く感じました。見つけて終わるのではなく、少しでも近づけるようにこれからも改善していきたいと思います。艇数が多く、これまで経験のないマーク際の混戦やブランケに苦戦しましたが、全国の舞台でしか学べない貴重な経験になりました。

私自身は学業の都合で今回のインカレをもってプレイヤーを引退し、今後はサポートチームとして活動します。約1年半プレイヤーとして女子インや全日本インカレに出場した経験を生かし、自分にしかできない形でチームに貢献したいです。最後になりましたが、これまで支えてくださった4回生の先輩方、監督、コーチ、OBOGの皆様に心から感謝いたします。

全日本インカレの所感

1回生/スナイッププレイヤー吉沢暁太郎



お世話になっております。

1回生スナイッププレイヤーの吉沢暁太郎です。

我々1回生は大会には出場しておりませんが、2025年度全日本学生ヨット選手権大会では江ノ島まで赴き、先輩方の応援をさせていただきました。

神戸大学として25年ぶりに両クラスで進出し、江ノ島の舞台に立つ姿を間近で見ることができたことは、1回生のうちからとても貴重な経験となりました。自分たちの代でも必ず全国の舞台に立ちたいという思いが一層強まり、ヨットに対するモチベーションが大きく高まりました。

本大会で引退される4回生の皆様をはじめ、日々積み重ねてこられた上級生、OBの方々、監督・コーチ陣の方々の想いを、これから練習を通してしっかりと受け継いでいきます。

また、海上で先輩方の勇姿を見る能够るように観覧艇を出してくださったOBの皆様にも、心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

全日本インカレの所感

2回生/マネージャー大石陽花



お世話になっております。

2回生マネージャーの大石陽花です。

今大会は、代交代後に入部した私にとって、初めての全国大会となりました。全国の舞台を経験して特に感じたのは、陸での雰囲気や動きの違いです。他大学の統一された服装や、応援の人数の多さ、吹奏楽・応援団・チアの存在など、会場全体が大きな一体感と熱気に包まれていました。陸上で走る姿や、力強い円陣の掛け声からは、この大会に懸けているという思いが強く伝わってきました。

私たちは今年、両クラス関西インカレ突破を目標に活動してきました。そのため、全日本での優勝を目指す大学との間に差を感じる場面もありましたが、同時に学ぶべき点が多くあることを実感しました。

今回の経験を糧に、まずは全日本常連校となり、その上でより良い成績を目指せるよう、日々の活動をより一層充実させていきたいと思います。

プラクティスレース結果報告

470級(全99艇)6R実施

43位4801 続③下山③414点

45位4815 市川④稲岡②194点

66位4741 太田③近藤②274点

99位4623 近藤②池田②500点

スナイプ級(全98艇)6R実施

53位31493 大島③川瀬④ 233点

69位31367 寺岡④岩田③ 291点

88位31730 浅井③池谷② 367点

97位31161 出光②延本②387点

詳しい成績は、こちらのサイトからご確認ください。→ [プラクティスレース結果](#)

おわりに

本号では、25年ぶりの両クラス全日本出場の結果ご報告と、部員たちの所感をお届けいたしました。

全国の舞台で得た経験を糧に、65代はさらなる飛躍を目指してまいります。

今後とも変わらぬご支援・ご声援のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

2025年11月

